

## 安全データシート (SDS)

作成・改訂：2016年11月01日

## 1. 製品及び会社情報

化学品名称  
 製品名 ターピー粘着シート (クリアー)  
 会社名 萩原工業株式会社  
 担当部門 合成樹脂事業部 ターピー部 品質強化課  
 住所 〒712-8502 岡山県倉敷市水島中通1丁目4番地  
 電話番号 086(440)0820  
 F A X 番号 086(440)0818  
 推奨用途及び使用上の制限 産業資材 養生用、人体への使用は禁止。

## 2. 危険有害性の要約

GHS分類 分類基準に該当しない。  
 GHSラベル要素 分類基準に該当しない。  
 危険性 本製品は危険物に該当しないが、指定数量(3,000Kg)以上では「指定可燃物合成樹脂類その他のもの」に該当するため、火気注意のこと。  
 有害性 製品としての情報なし。  
 環境影響 野外に露出した場合、鳥等の動物が飲み込み窒息する可能性があるため、廃棄や露出には注意を要す。

## 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分 混合物

## 組成及び成分情報

| 化学物質名    | 含有量 (wt%) | 化学式又は構造式 | 官報公示整理番号 |     | CASNo |
|----------|-----------|----------|----------|-----|-------|
|          |           |          | 化審法      | 安衛法 |       |
| ポリエチレン   | 35~45     | —        | 既存       | —   | 既存    |
| アクリル系粘着剤 | 55~60     | —        | 既存       | —   | 既存    |
| その他      | 0~5       | —        | 既存       | —   | 既存    |

| 化学物質管理促進法 (P R T R法) |   |         |           | 労働安全衛生法  |         |
|----------------------|---|---------|-----------|----------|---------|
| 種別                   | 号 | 指定化学物質名 | 含有量 (wt%) | CAS No.  | 通知対象物質名 |
| 該当しない                |   |         |           | 141-78-6 | 酢酸エチル   |

## 4. 応急措置

製品形状がシート状であり、通常使用の場合は該当しないが、加工により粉砕等を行った場合は以下の処置を行う。

吸入した場合 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休憩させること。  
 気分が悪い場合は、医師の診断、手当を受けること。

皮膚に付着した場合 皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断、手当を受けること。  
 皮膚を速やかに洗浄すること。  
 気分が悪い場合は、医師の診断、手当を受けること。

眼に入った場合 水と石けんで洗うこと。  
 気分が悪い場合は、医師の診断、手当を受けること。  
 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
 眼に刺激が持続する場合、医師の診断、手当を受けること。

飲み込んだ場合 気分が悪い場合は、医師の診断、手当を受けること。  
 口をすすぐこと。

## 5. 火災時の措置

消火剤 水、粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素、砂等

|                                |   |
|--------------------------------|---|
| <b>使ってはならない消化剤<br/>特有の危険有害</b> | 棒状注水<br>火災によって刺激性、腐食性及び/又は毒性のガスを発生するおそれがある。   |
| <b>特有の消化方法</b>                 | 熱、火花及び火炎で発火するおそれがある。<br>火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。<br>初期の火災には水（霧状水）、粉末消化器などを用いる。<br>大規模火災の蔡には、泡消化剤などを用いて空気を遮断することが有効である。<br>周囲の設備などに散水して冷却する。 |
| <b>消化を行う者の保護</b>               | 移動可能な製品は速やかに安全な場所に移す。<br>一酸化炭素及び二酸化炭素や黒煙等が発生するので、防火服等に加え防毒マスクを着用することが望ましい。<br>風上から消化する。   |

**6. 漏出時の措置**

|                 |  |
|-----------------|--|
| <b>人体に対する注意</b> | 作業者は適切な保護具（『8. 暴露防止及び保護処置』の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。<br>溶融物が付着した場合は、大量の水で冷却し、医師の診断を受けること。<br>外観に変化が見られたり、痛みや刺激が続く場合は直ちに医師の診断を受けること。 |
| <b>環境に対する注意</b> | 付近の着火源と成りそうな物を速やかに取り除くこと。<br>環境中に放出してはならない。  |
| <b>回収</b>       | 掃き集め空容器等に回収し、指定の廃棄物処分法にて処分する。  |

**7. 取り扱い及び保管上の注意**

|               |   |
|---------------|---|
| <b>技術的対策</b>  | 『8. 暴露防止及び保護処置』に記載の設備的対策を行い、保護具を着用する。           |
| <b>取扱上の注意</b> | 着火源に近づけない。<br>直射日光を避け換気の良い屋内で保管する。              |
| <b>保管上の注意</b> | 保管場所周辺では火気厳禁とする。<br>強酸化剤（ハロゲン、過酸化物等）の近くには保管しない。 |

**8. 暴露防止及び保護措置**

|               |   |
|---------------|---|
| <b>管理濃度</b>   | 設定されていない。   |
| <b>許容濃度</b>   | 設定されていない。   |
| <b>設備対策</b>   | 粉じん又は加熱溶融等で蒸気、ガスが発生する場合は局所排気装置を設置する。<br>装置等に静電気防止処置を行う。 |
| <b>呼吸用保護具</b> | 粉塵が発生する加工を伴う場合は防塵マスク、溶融等で蒸気、ガスが発生する場合は有機ガスマスクを着用する。     |
| <b>保護手袋</b>   | 軍手の着用が好ましい。   |
| <b>保護眼鏡</b>   | 粉塵、蒸気、ガス等が発生する場合は安全眼鏡を使用する。                             |
| <b>保護衣</b>    | 長袖作業着が好ましい。   |

**9. 物理的及び化学的性質**

|                 |                       |
|-----------------|-----------------------|
| <b>物理的状态</b>    | 固体（ポリエチレン製糸織物のラミネート品） |
| <b>臭い</b>       | ほとんど無臭                |
| <b>融点</b>       | 105～130℃              |
| <b>沸点</b>       | 製品としての情報なし            |
| <b>引火点</b>      | 製品としての情報なし            |
| <b>爆発限界</b>     | 製品としての情報なし            |
| <b>蒸気圧・蒸気密度</b> | 製品としての情報なし            |
| <b>揮発性</b>      | 製品としての情報なし            |

|       |                 |
|-------|-----------------|
| 比重    | 製品としての情報なし      |
| 溶解度   | 水に不溶            |
| その他溶媒 | 熱キシレン等の芳香族溶媒に可溶 |

## 10. 安定性及び反応性

|                         |   |
|-------------------------|---|
| 反応性、化学的安定性<br>危険有害反応可能性 | 通常の手扱い条件下では安定である。<br>通常の手扱い条件下では危険有害反応を起こさない。<br>燃焼により、一酸化炭素(CO)、NOX等の有害ガスが発生等が発生する恐れがある。 |
| 避けるべき条件                 | 高温下、急激な温度変化   |

## 11. 有害性情報

|                       |  |
|-----------------------|--|
| 製品の有害情報               | 製品としての情報なし   |
| 急性毒性                  | 製品としての情報なし   |
| 皮膚腐食性・刺激性             | 製品としての情報なし   |
| 目に対する重篤な損傷<br>または眼刺激性 | 製品としての情報なし   |
| 呼吸器感作性・皮膚感作性          | 製品としての情報なし   |
| 生殖細胞変異原性<br>発がん性      | 製品としての情報なし<br>ポリフェンとして<br>IARCの発がん性区分でグループ3に分類されている。<br>但し、ヒトに対する発がん性について分類できない。 |
| 生殖毒性                  | 製品としての情報なし   |
| 特定標的臓器・全身毒性<br>(単回暴露) | 製品としての情報なし   |
| 特定標的臓器・全身毒性<br>(反復暴露) | 製品としての情報なし   |
| 吸引性呼吸器有害性             | 製品としての情報なし   |

## 12. 環境影響情報

|            |   |
|------------|---|
| 製品の環境影響情報  | 製品としての情報なし  |
| 生態毒性       | 製品としての情報なし<br>但し、海洋生物や鳥類が摂取することを防止するために、海洋や水域での<br>投棄、放出はしない。 |
| 残留性・分解性    | 製品としての情報なし<br>ポリフェンは環境中で長期間分解しない。                             |
| 生体蓄積性      | 製品としての情報なし  |
| 土壌中の移動性    | 製品としての情報なし  |
| 水層有害性      | 製品としての情報なし  |
| 成分の環境有害性情報 | 製品としての情報なし  |

## 13. 廃棄上の注意

|          |   |
|----------|---|
| 残余廃棄物    | 廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。<br>廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。 |
| 汚染容器及び包装 | 容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。<br>空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。  |

## 14. 輸送上の注意

|              |       |
|--------------|-------|
| 国際規制<br>国連番号 | 該当しない |
|--------------|-------|

|   |  |
|---|--|
| 海洋汚染物質                                  | 該当しない  |
| MARPOL73/78付属書ⅡおよびIBCコードによりばら積み輸送海洋汚染物質 | 該当しない  |
| 航空規制情報                                  | 該当しない  |
| 国内規制                                    |  |
| 海上規制情報                                  | 該当しない  |
| 航空規制情報                                  | 該当しない  |
| 陸上規制情報                                  | 消防法における指定可燃物に該当するので、同法の規定に従った容器、積載方法により輸送する。         |
| 緊急時応急処置指針番号                             | なし   |
| その他                                     | 水濡れ、異物混入及び荷崩れ防止措置を行う。<br>包装を傷付けたり、破袋させるような乱暴な取扱いは厳禁。 |

## 15. 適用法令

|           |  |
|-----------|--|
| 労働安全衛生法   | 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9) |
| 消防法       | 指定可燃物(合成樹脂類3,000kg)                      |
| 化学物質管理促進法 | 該当しない                                    |
| 毒物及び劇物取締法 | 該当しない                                    |
| 化審法       | 該当しない                                    |

## 16. その他情報

|      |  |
|------|--|
| 参考文献 | JIS Z 7253:2012「GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS)」<br>JIS Z 7252:2014「GHSに基づく化学物質等の分類方法」<br>GHS Ver. 4 (UN) 2011. 7<br>独立行政法人 製品評価技術機構のGHS分類<br>化審法データベース(J-CHECK)<br>原材料メーカーの安全データシート(SDS)         |
| その他  | 本SDSは、JIS Z 7253:2012に準拠し、作成時における入手可能な製品情報、有害性情報に基づいて作成していますが、必ずしも十分でない可能性がありますので、取扱にはご注意ください。<br>本SDSの記載内容については、新しい知見等がある場合には必要に応じて変更して下さい。<br>また、注意事項等は通常の取扱を対象としたものですので、特別な取扱いをする場合には用途・条件に適した安全策を実施の上、お取り扱い願います。 |